

## 抗インフルエンザウイルス薬の使用状況

### (企業提出資料)

中外製薬株式会社提出資料 【2 ページ】

グラクソ・スミスクライン株式会社提出資料 【7 ページ】

塩野義製薬株式会社提出資料 【8 ページ】

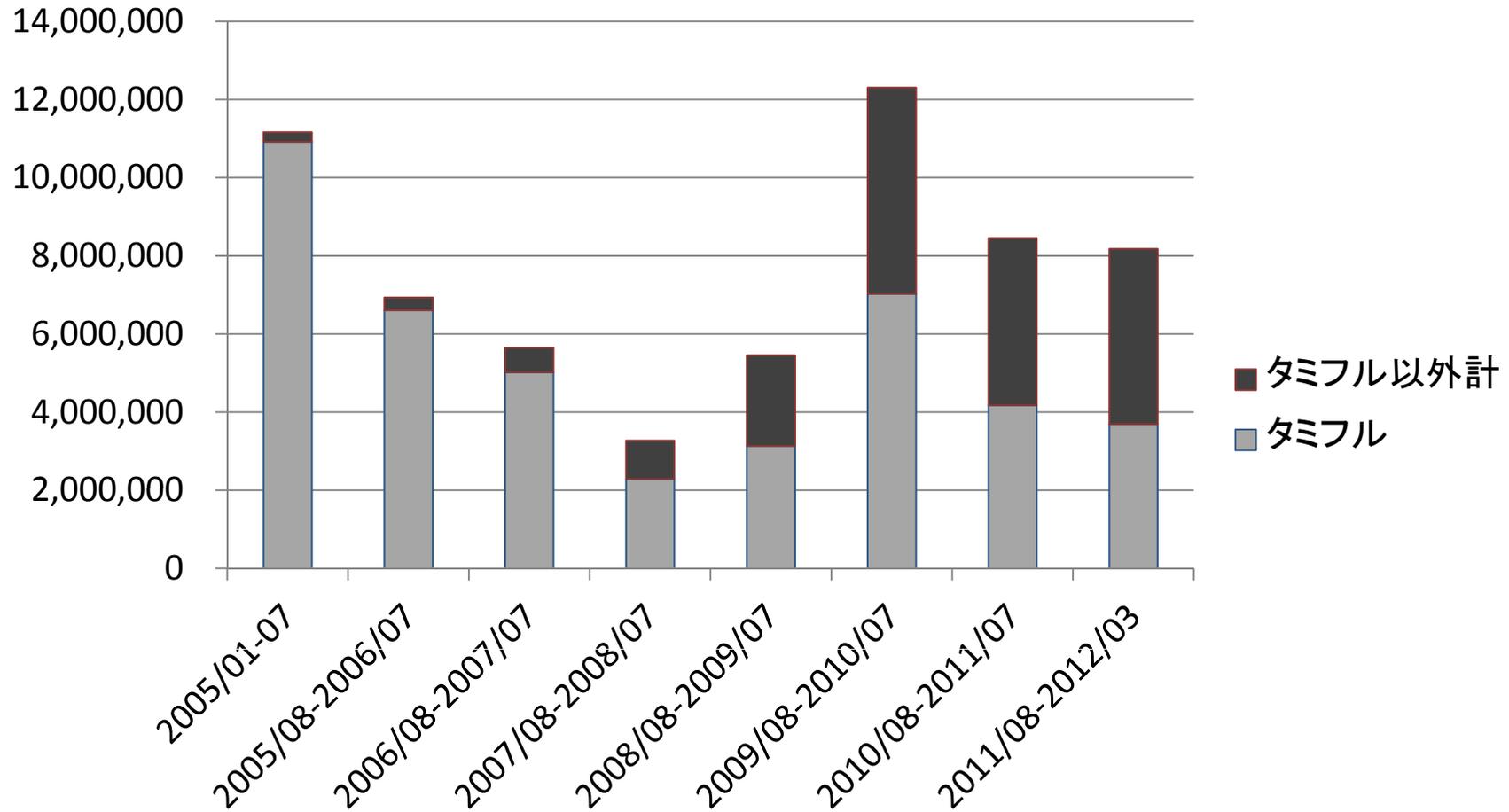
第一三共株式会社提出資料 【9 ページ】

# 抗インフルエンザ薬の処方患者の推計

## (企業提出資料による)

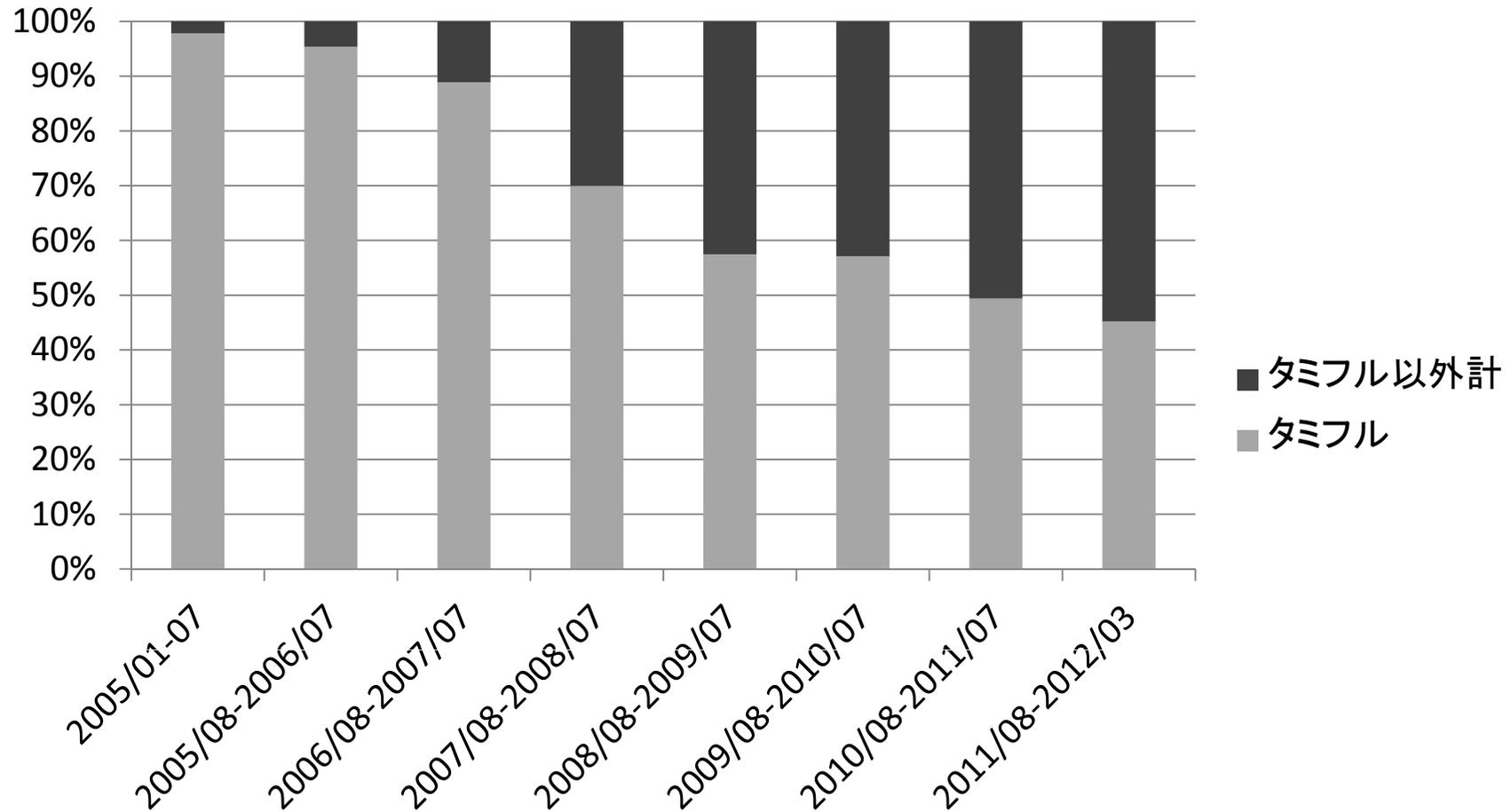
	0～9歳の推定 処方患者数	10～19歳の推定 処方患者数	全推定 処方患者数	出典 (期間)
オセルタミビルリン 酸塩	約176万人 (67%)	約16万人 (9%)	約370万人 (44%)	JMDC社JDM-PV (2011/08 – 2012/03)
ザナミビル水和物	約49万人 (19%)	約76万人 (41%)	約170万人 (20%)	JMIRI((株)医療情報総合研究所)、 JMDC((株)日本医療データセンター) 等のデータより、GSKが各種条件の 下算出 (2011年10月-2012年4月)
ペラミビル水和物	約2万人 (1%)	約4万人 (2%)	約28万人 (3%)	塩野義製薬株式会社, 出荷数量 調査結果等 (2011/10～2012/8)
ラニナミビルオクタ ン酸エステル水和 物	約36万人 (14%)	約90万人 (48%)	約265万人 (32%)	JMDC((株)日本医療データセン ター)のデータより、第一三共が 推定 (2011年10月～2012年3月)
合計	263万人	186万人	833万人	

# 抗インフルエンザ薬 推定処方患者数



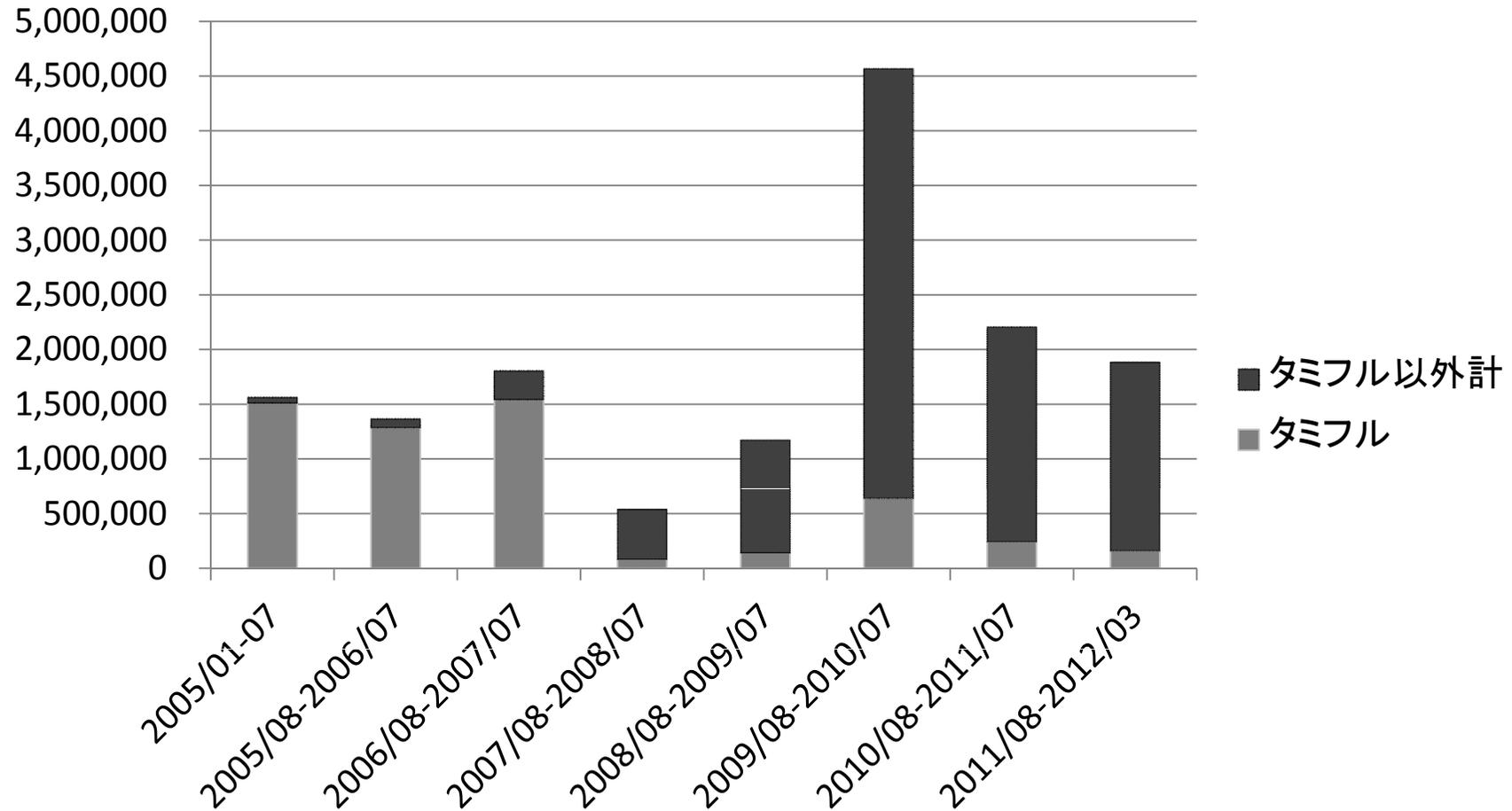
株式会社日本医療データセンターデータベースより算出

# 抗インフルエンザ薬 処方比率



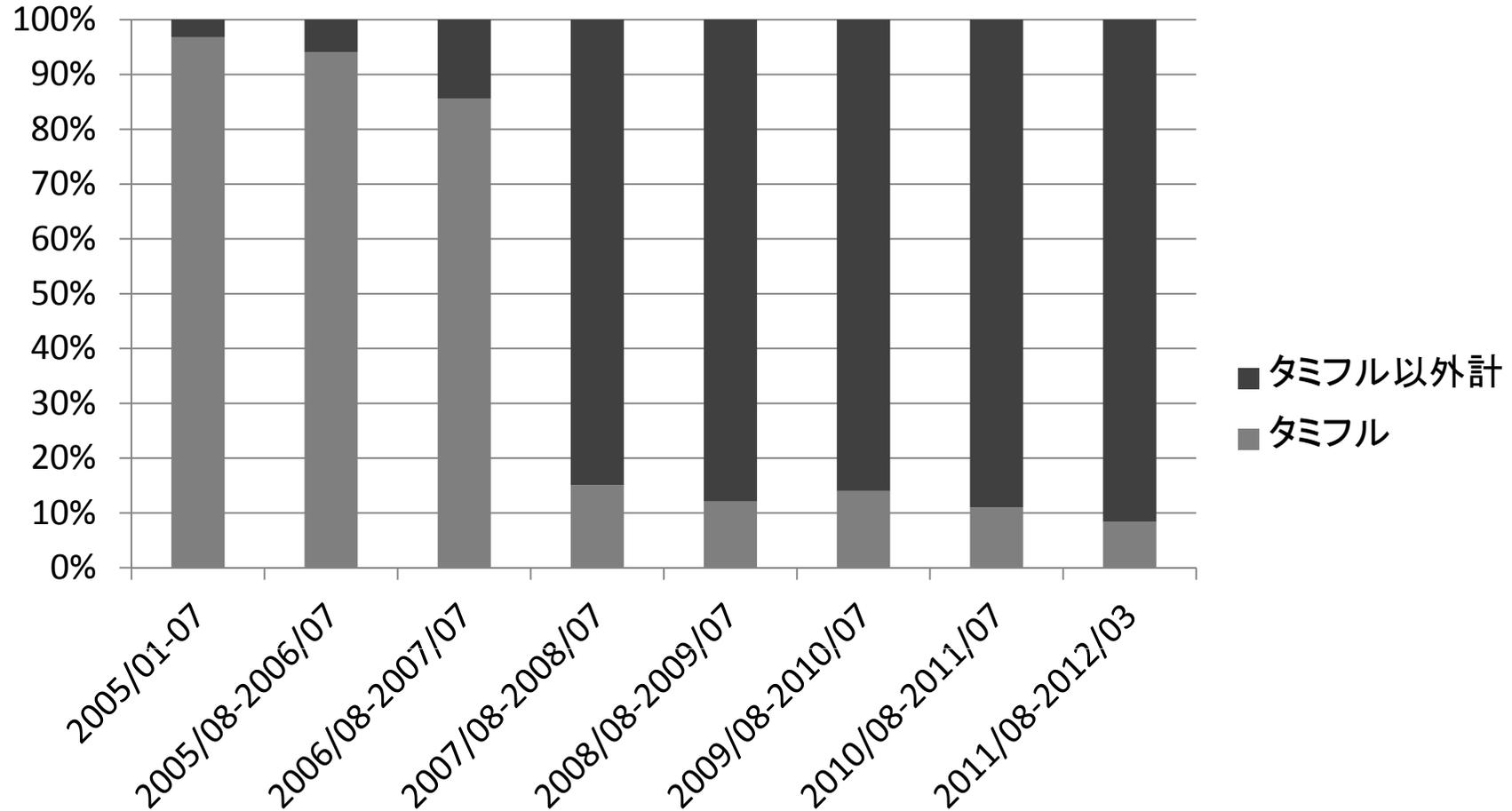
株式会社日本医療データセンターデータベースより算出 <sup>2</sup>

# 抗インフルエンザ薬 10歳代推定処方患者数



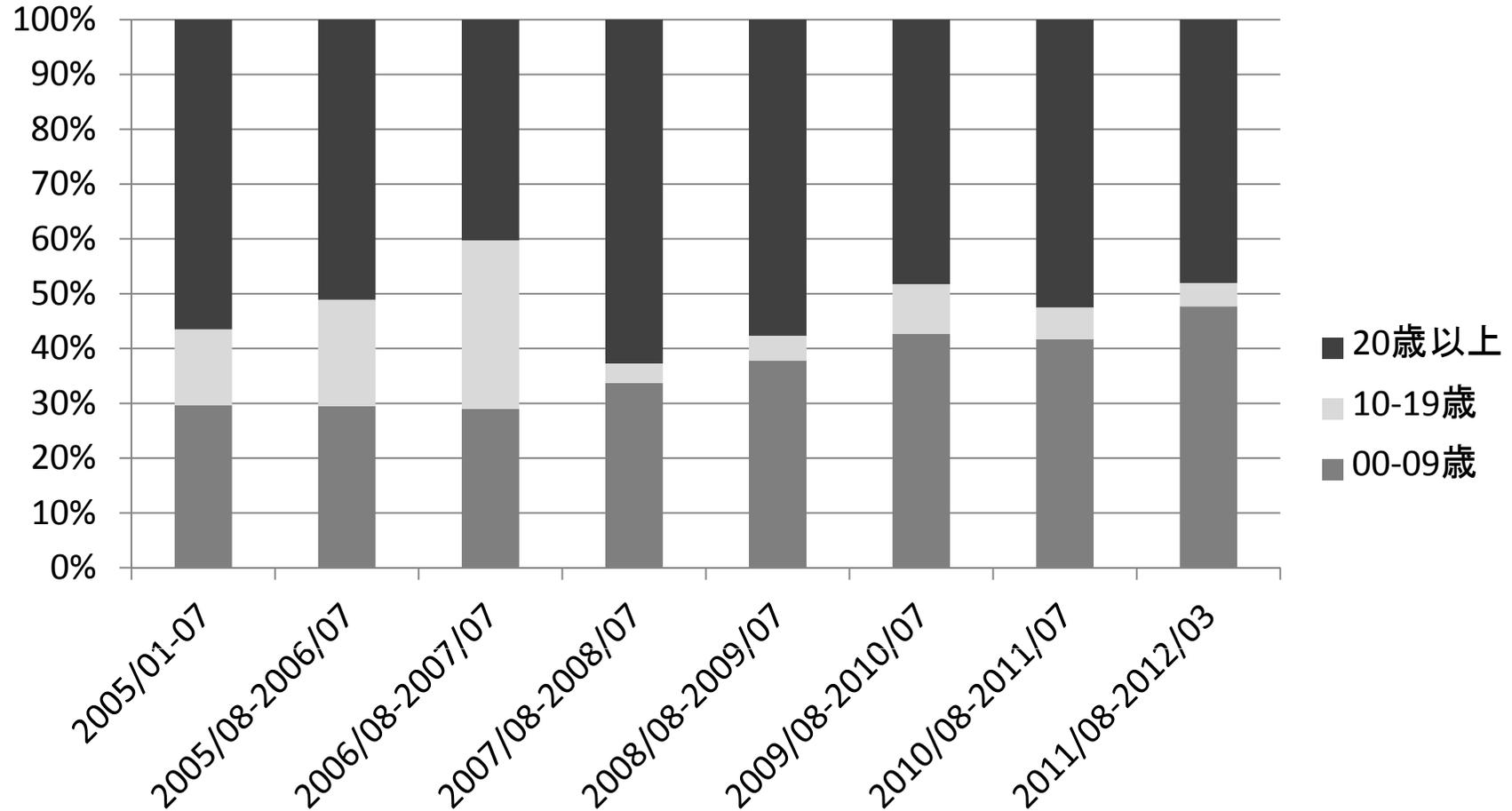
株式会社日本医療データセンターデータベースより算出

# 抗インフルエンザ薬 10歳代薬剤処方比率



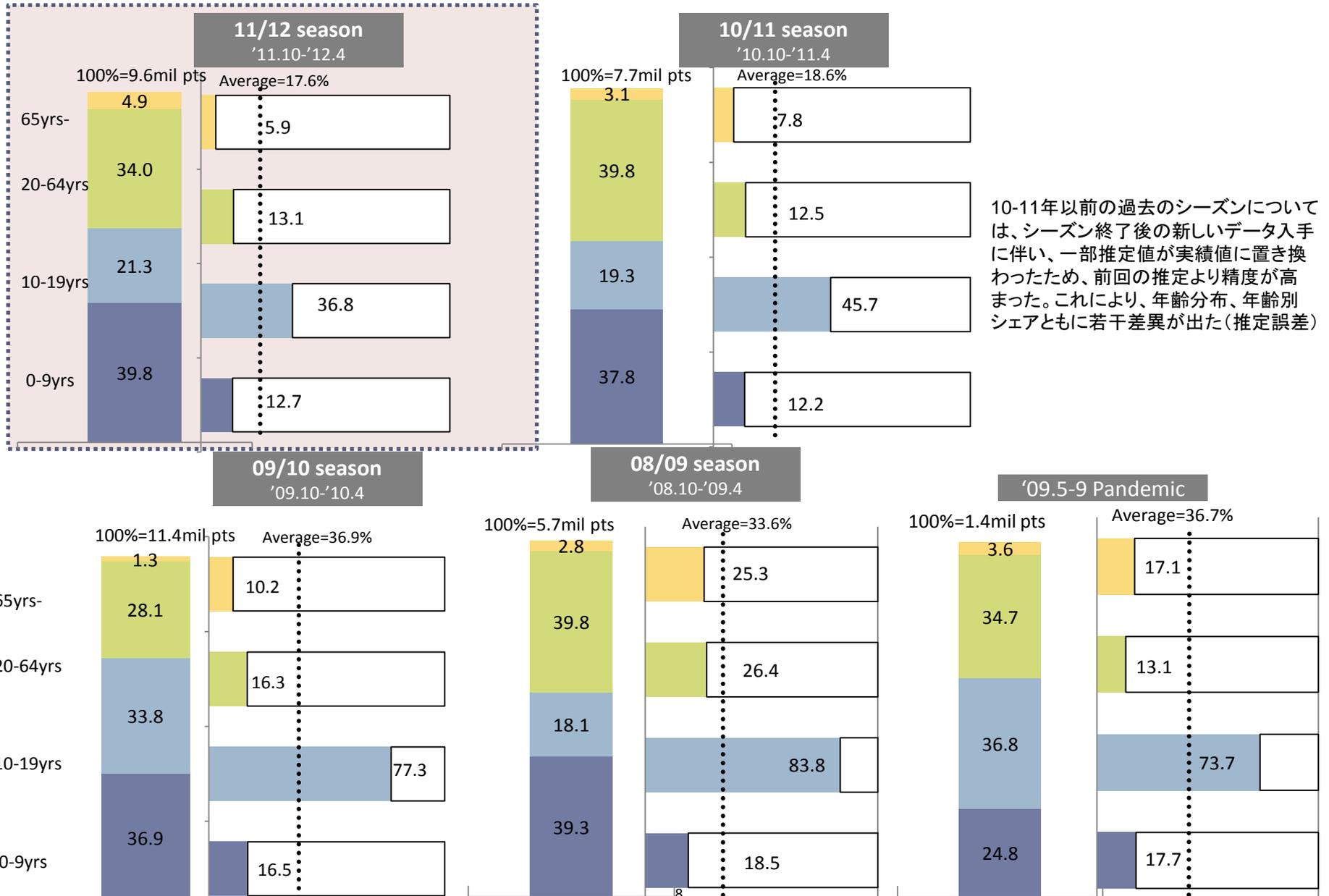
株式会社日本医療データセンターデータベースより算出

# 年代別タミフル処方比率



株式会社日本医療データセンターデータベースより算出

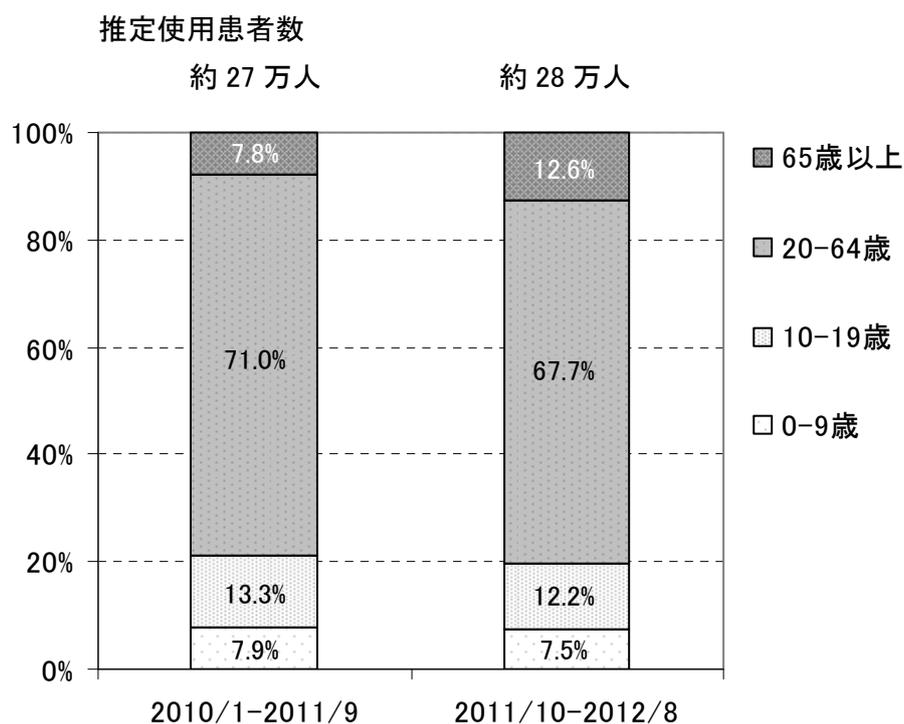
# 患者年齢区分別抗インフルエンザ薬の処方状況とリレンザのシェア(推定)



10-11年以前の過去のシーズンについては、シーズン終了後の新しいデータ入手に伴い、一部推定値が実績値に置き換わったため、前回の推定より精度が高まった。これにより、年齢分布、年齢別シェアともに若干差異が出た(推定誤差)

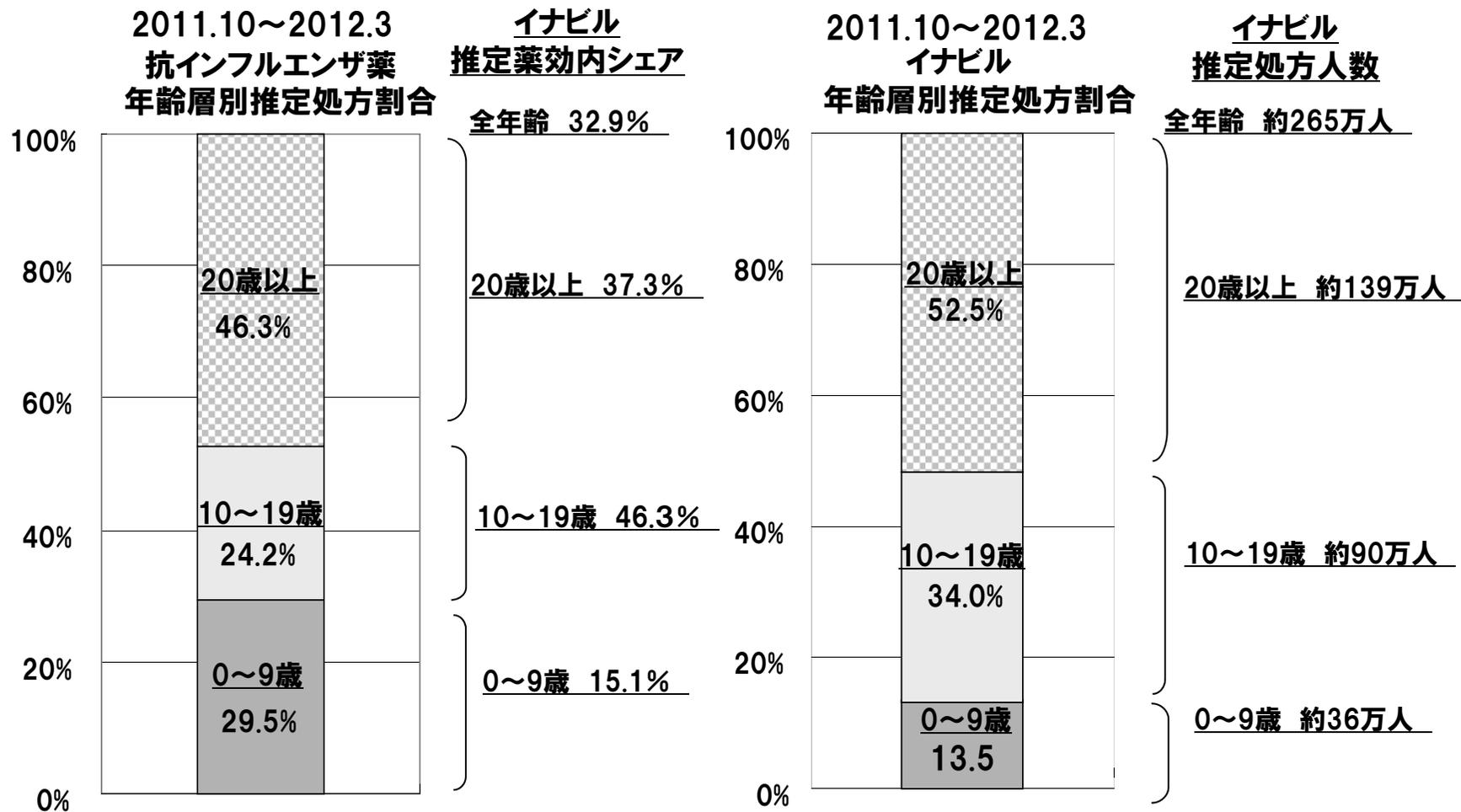
※「抗インフルエンザ薬」には、リレンザの他、タミフル(ドライシロップ、カプセル)及び2010-11シーズン以降はイナビルを含む  
 出典: JMIRI(株)医療情報総合研究所, JMDC(株)日本医療データセンター等のデータより、GSKが各種条件の下算出

## 患者年齢区別抗インフルエンザウイルス薬使用状況 (ラピアクタ点滴静注液)



- 1) 推定使用患者数：各シーズンの出荷数量を本剤の通常用量（300 mg 単回投与）で除して算出
- 2) 年齢区分：2010 年 10 月より実施中の製造販売後調査（使用成績調査，小児に対する特定使用成績調査）の中間データより比率を算出

# 抗インフルエンザウイルス薬の使用状況とイナビルの推定シェア 【2011年10月～2012年3月の年齢層別】



出典:JMDC((株)日本医療データセンター)のデータより、第一三共が推定